

「星原小学校のヤートセー伝承活動の取組」

1 学校名

中種子町立星原小学校

2 学年・人数

全学年(計20人)

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和元年9月～10月 総合的な学習の時間及び夜間(本校体育館)

(2) 発表の日時・場所

令和元年9月22日(日) 小学校・校区合同運動会(本校運動場)

令和元年11月3日(日) 中種子町民文化祭(種子島こり～な)

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能, 伝統行事について

(1) 名称

ヤートセー (やあとせえ)

(2) 由来

ヤートセーはいつごろ, どこから伝わってきたかは不明だが, 歌詞からみて江戸初期から中期の内地のはやり歌謡が定着し, 踊り継がれてきたようである。種子島における郷土芸能の踊りは, 大踊り・中踊り・小躍り・座踊りなどに分類されるが「ヤートセー」は中踊りに入る。唄の囃子が「ヨイヨイ」「ヤートセー」の2通りあり, この囃子から踊りの名もヤートセーとなったと言われている。

(3) 構成等

内側で男性陣が入れ子太鼓, 締太鼓, 鐘を打ち鳴らして踊り, 外側で女性陣が扇子を持って踊る。楽曲は, 「出端(では)」「本踊り(お久米口説き)」「引端(ひきは)」の3種類で構成される。

5 保存会や地域との連携の具体

星原校区では, 坂元, 牧川, 竹之川集落にそれぞれのヤートセーが伝承されていたが, 高齢・過疎化により伝承が難しくなっていた。1984(昭和59)年, 伝承者の一人である厚地葉子氏と当時, 本校教諭であった田中文代氏が尽力し, 唄を採譜してピアノ伴奏を付け囃子方の保護者の協力も得て, 音源を作成した。

伝承の主体は育成会が担っており, 中種子町文化少年団とも連携しながら, 子ども会育成会を中心に伝承されている。本校は極小規模校であり, 育成会長はPTA会長が兼務しているため, 実際の活動は, PTA活動と融合した状態で行っている。職員も踊り手として参加するなど協働して伝承に寄与している。

現在は運動会で披露することが毎年の恒例となっているほか, 年によって町の文化祭や生涯学習大会, 農林漁業祭等のイベントで披露している。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

総合的な学習の時間に、上級生が下級生へと踊りを伝える活動や、教職員も踊りに参加するなどしている。また、家庭教育学級ではヤートセイに向けた着付け教室を行い、親が我が子の着付けをしてあげられるようにした。さらに、伝承の主体は育成会になっていることを尊重し、学校としては、練習時間や場所を確保するための連絡調整をしたり、踊りに必要な道具の保管・整理したりしているとともに、今後も伝承していけるように資料を整理・保管し、音源をデータ化するなどの支援を行っている。

総合的な学習の時間にはふるさとを学ぶ活動の一つとして、この「ヤートセイ」を位置付け、由来等について調べる活動、上級生から下級生に伝える活動を行っている。

7 取組の様子



【上級生から下級生へ伝える活動】



【運動会での披露】



【町文化祭での披露】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想

- ・ 毎年やっていることなので、星原のいいところを大事にしたい。(児童)
- ・ 太鼓が重くて腕が痛くなったけど、おもしろかった。(児童)
- ・ ヤートセイは華やかで見応えがある。今後も伝承して欲しい。(教員)
- ・ 親子で参加したことが、とてもよい記念になった。(保護者)

